

平成 28 年度 第 1 回土木計画学委員会幹事会 議事録

日時：平成 28 年 5 月 12 日（木） 16：00～18：00

場所：土木学会 CD 会議室

■ 出席者

委員長：桑原 雅夫（東北大学），副委員長：赤松 隆（東北大学）

幹事長：羽藤 英二（東京大学）

学術小委員長：多々納 裕一（京都大学）

春大会運営小委員長：吉井 稔雄（愛媛大学）

委員兼幹事：内田 賢悦（北海道大学），大沢 昌玄（日本大学），大西 正光（京都大学），
長田 哲平（宇都宮大学），塚井 誠人（広島大学），鳩山 紀一郎（東京大学），
原 祐輔（東北大学），福山 祥代（東京大学），林 淳二（土木学会）

■ 資料

[資料 1] 第 3 回土木計画学委員会幹事会 議事録（案）

[資料 2] 熊本地震報告会・土木計画学 50 周年若手研究者セッション プログラム案

[資料 3-1, 2] 学術小委員会からの報告

[資料 3-3] 春大会運営小委員会 報告

[資料 3-4] 2016 年度春大会開催校準備状況

[資料 4-②] 平成 27 年度土木計画学研究委員会名簿

[資料 4-③] 研究小委員会設置申請書（新規 2 件，延長 1 件）

[資料 4-⑦] ワンデイセミナー・シンポジウムの受付及び運営フロー

[資料 4-⑩] 平成 27 年度土木計画学研究委員会決算報告，平成 28 年度予算執行計画（案）

[資料 5-1] 計画学 50 周年関連行事 準備・進捗状況

■ 議事

1. 前回議事録確認

- ・資料 1 に基づき前回議事録の確認が行われ，認められた。

2. 熊本地震対応について

- ・羽藤幹事長より，熊本地震発災以降進められている調査の計画学メンバーへの共有を目的として，春大会において熊本地震報告会を開催すること，このため予定されていた若手研

究者セッションの時間を短くし、地震報告会 80 分、若手セッション 35 分とすることが提案され、承認された。

・また、以下の 2 点が確認された。

-資料 2 において、調査団のメンバーを確認し、追加・修正する。

-各報告・討議の時間配分は、ファシリテーターの多々納先生の方で行う。

3. 土木計画学研究発表会の準備について

(1) 学術小委員会からの報告

・多々納学術小委員長より、資料 3-1 に基づき、D3 特集号の査読状況と、秋大会の特別論文セッションに関する具体的な実施方針について報告がなされた。

・特別論文セッションの「招待論文（優秀論文）」の表彰方法について、秋大会の基調講演の前などに委員長がまとめて渡す方法がよいのでは、という意見が出された。

・また、資料 3-2 に基づき、学術小委員会・大会運営小委員会の組織再編に関して、組織の構成及び役割分担についての報告がなされた。具体的には、

◆ 春大会と秋大会を統合して大会運営小委員会をつくる方針は前回承認済。

◆ 2 人の副委員長が春大会、秋大会をそれぞれ担当、顧問は計画学委員会副委員長が兼任、小委員長は新たに選任する。今年度は現行体制で実施し、新しい小委員長は次年度に向けて準備を進めてもらう。

◆ 学術小委員会の副委員長の仕事を大会運営小委員会の副委員長に移す。

◆ 春大会、秋大会の財務は、大会運営小委員会もしくは学術小委員会が司ることを検討。

・これに対し、学術小委員会と大会運営小委員会の関係、またこれらと計画学委員会との関係の将来的なあり方について議論がなされ、以下のような意見が出された。

◆ 学術小委員会・大会運営小委員会がメインプラットフォームになる方が、学会の本質的な目的である研究の質を高める上で有効ではないか。

◆ 研究小委員会や HP、ワンデイセミナー等も重要な活動であり、幹事会での議論も必要。

◆ 今回の改変は組織としてよくなっているのでよいが、今後全体のスリム化を検討すべき。

◆ 幹事会では、もっと若い世代のことを考えた企画を行ったり、幹事会に若手が参加して自由に議論するような場を設けたりしてはどうか。

(2) 春大会準備状況

・吉井春大会運営小委員長より、資料 3-3 に基づき、第 53 回研究発表会のセッション数・発表論文数やプログラム、企業展示ブースの申込数などについて報告がなされた。

・また、来年度の春大会（第 55 回研究発表会）は愛媛大で開催され、6/10（土）、11（日）が希望日であることが報告された。開催日については、支部の発表会の予定を確認した上で

決定する方針となった。

- ・内田開催校委員より、資料 3-4 に基づき、春大会開催校準備状況として、会場の手配状況や開催校 HP の開設に関する報告がなされた。

4. 平成 27 年度幹事担当タスクの検討状況報告

①活動評価・中期目標対応（報告：事務局(大西)）

- ・活動評価・中期目標作成タスクが 6 月 10 日締切で担当幹事に依頼される旨が報告された。

②本委員会・全国大会対応（報告：大西）

- ・資料 4-②に基づき、現時点の土木計画学研究委員会の名簿に関して、異動による勤務先変更等が報告され、誤記（学術小副委員長を藤田先生に訂正）が指摘された。
- ・また、29 年秋までの委員について、羽藤幹事長から、国交省等の実務者とするのが提案され、以下の議論がなされた。
 - ◆ 計画学は今まで全体が学だったが、実務と連携したマニュアル作成等を考えると実務者が入ることも意味がある。ただし、実質的な動きに繋がるよう役割を設けることが必要。
 - ◆ 委員とは別の立場で研究プロジェクトを見る、外部評価委員のような位置づけもあり得るのではないか。
 - ◆ 少なくとも、1年に1回程度幹事会に来てもらって議論し運営に生かすことが必要では。
- ・議論を踏まえて、委員の役割を「アドバイザー」とすること、室長レベルに依頼し、役職固定はせず人ベースで依頼することが提案され、了承された。

③研究小委員会対応（報告：事務局(大西)）

- ・資料 4-③-1 により、各小委員会の活動状況が報告された。
- ・また、資料 4-③-2 により、新規小委員会設立申請（2 件）：「地域アセットマネジメント実装小委員会」（小委員長：小林潔）「土木計画分野における 3 次元モデルの活用に関する研究小委員会」（小委員長：秀島栄三）、期間延長申請（1 件）：「都市間旅客交通研究小委員会」（小委員長：奥村誠）の申請内容が報告された。期間延長に関しては、趣旨は変わっていないが、旅客純流動調査が 2020 年に実施されることから調査手法の検討を行いたいこと、予算が獲得できたことが、申請理由として説明された。
- ・各小委員会の活動に関して、活動していない小委員会もあり、近年は成果が見えなくなっているなど、活性化が必要な状況であることが指摘され、ミッションの必要性や、星取表作成を課すことや HP の作成を促すことなどの対応策が議論された。

④HP 担当

- ・CMS 化について、間に合えば春大会の本委員会で操作画面を写して報告する方針となった。

⑤国際セミナー、⑥国際センター・出版委員会担当：特になし

⑦ワンデイセミナー・シンポジウム（報告：大沢）

- ・従来なかったワンデイセミナー実施の手続きについて、資料 4-⑦に基づき実施フローが提案され、承認された。フローについて、HP に掲載するよう指示がなされた。

⑧全国大会研究討論会、⑨総務担当：特になし

⑩財務 WG 担当（報告：福山）

- ・平成 27 年度決算と、平成 28 年度予算の現時点での収入見込みと支出予定が報告された。
- ・平成 28 年度は収入見込みが平成 27 年度に比べて大幅に減少し、計画学予算から 50 周年記念シンポジウムの費用を支出するのが難しいこと、ワンデイセミナーは原則独立採算制であるため、平成 27 年度に例外的に支出していたワンデイセミナーの開催補助は平成 28 年度は実施しないことが説明された。
- ・以上を踏まえて、50 周年記念行事の費用に関しては、寄付を募って独立運営で実施する方針が確認された。
- ・また、今後の計画学委員会の収入確保に関して、寄付の可能性や春大会で実施する企業ブースの活用などが議論された。

5. 50 周年事業及び今後の運営方針のディスカッション

(1) 土木計画学ハンドブック（報告：大西）

- ・現在の進捗状況は 80%程度であり、春大会時点での 100%達成が目標である旨が報告された。

(2) 50 周年関連行事（報告：原）

- ・資料 5-1 により、50 周年記念シンポジウムの構成案が提案され、以下の議論がなされた。
 - ◆ 第 2 部はディスカッション方式も検討してはどうか。第 3 部はテーマをもっと絞ったほうがよい。当たり前議論にならないようにすべき。
 - ◆ そろそろ登壇者の確定が必要。第 1 部の登壇者は久保田先生、羽藤先生が再調整する。
 - ◆ 第 2 部はディスカッションの相手がいたほうがよい。博士学生や幹事以外の助教など。
 - ◆ 第 3 部は若手が本当に課題だと思うことを出してほしい。計画学の守備範囲以外にも広がるような。
 - ◆ 全体の構成から見て、若手のところで研究として面白いものが必要。
 - ◆ 「実践」はどう回収するのか。問題がどう変わってきているかという議論は実践側。道具の変化により、取り組める問題の範囲も変わっている。先を見た問題設定が必要。
- ・以上を踏まえて検討し、次回再提示することとなった。

以上